

エンカウンター（ENCOUNTER）

第 47 号

平成 18 年 3 月 20 日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三
電話 045-912-1960

L・B・カウマン「山頂をめざして」より（2）

2 月 20 日

私の教えは雨のように降りそそぎ... （申命記 32・2）

美しい自然は、神の永遠のみ言葉の機織り機で織られた神の衣である。...

美しい言葉は、美しい顔、美しい態度、美しい生活をつくり出す。

...

あなたの言葉に気をつけなさい

あなたの言葉に気をつけなさい。

言葉はとても不思議なものだ。

それは蜜蜂の新鮮な蜜のように甘く、

そして、蜜蜂の針のように恐ろしい。

言葉はまた

暖かく喜ばしい日光のように、

人々に祝福を与えることができ、

孤独な生活を明るくする。

そして、怒り争うときに

開かれた両刃のように切り裂くのも
言葉だ。

平安があなたの生活を守り、
あなたの若い日から
日々のあなたの言葉が
いつも美しい真理の言葉であるように。

友人に贈る花を選ぶように、あなたの言葉を選びなさい。話し言葉の芸術において模範となりなさい。

「主よ、わが口に門守をおいて、わがくちびるの戸を守ってください。」(詩篇 141・3)

「わが岩、わがあがない主なる主よ、どうか、わたしの口言葉と、心の思いがあなたの前に喜ばれますように」(詩篇 19・14)

2月24日

男らしく強くあってほしい。（第1コリント16・13）

よい材質

よい材質は安逸のうちには造られない。
風が強ければ強いほど
木は強くなり、
空に向かえば向かうほど
木は高くなり、
あらしが激しければ激しいほど
木の力は強くなる。
日光と寒冷が、雨と雪が、
よい材質をもたらすものなのだ、
木でも、人でも。

森の中で木々のいちばんおい茂るところ、
そこで、人も木も偉材になるのだ。
やがて、他のものの上に頭を現わして、
星と語り合うようになる。
折れた枝の傷跡は、
多くの風、多くの戦いの跡を物語る。

人生普遍の法則である。

ダグラス・マルロック

2月26日

このような患難の中にあって、動揺する者がひとりもないように
...。わたしたちは患難に会うように定められているのである。(第
1テサロニケ 3・3)

私たちは皆、日光が好きである。しかし、アラビア人の間には「日照りばかり続くと砂漠が出来る」ということわざがある。そして、キリスト者生活における徳性はしばしば、試練を通り抜けた人々によりはつきり現われるということは、一般に認められている事である。神は、私たちの本性という土壌から、できるだけ多くの収穫を得たいと望んでおられる。キリスト者生活におけるある種の実たとえば柔和、慈愛、親切、謙そんなどは、もし繁栄の太陽が常に輝いているならば、完成されることはありえない。人生における暗い事物が土台となって、その上に永遠の花が咲くのである。

かしよ、巨大なかしよ、
あなたの秘密を教えてくれ
かしはただこう答えてくれた、
「私は長い間、強風に耐え、
長い間、苦しみを忍んできた。
私の枝、私の根は、
それでこうして広がったのだ。
強くなる前に学びなさい、
耐え忍ぶということ。」

2月27日

だから、愚かな者にならないで、主の御旨がなんであるかを悟りなさい。（エペソ 5・17）

いかにして神のみこころを確かめるか

1 あなた自身の意志を明け渡しなさい。

私は、まず第一に、自分の心を、与えられた問題について自分自身の意志というものを全く持たないという状態に置くように努める。私たちに心の中に、みこころ たとえそれがどのようなものであろうとも に従う準備が出来ているならば、困難の十分の九まではすでに克服されているのである。人が真にこのような状態にあるならば、神のみこころがなんであるかを知るまでの道程は、通常、ほんの少しである。

2 感情にたよってはならない。...

3 神のみことばである聖書によって、聖霊のみこころを求めなさい。...

もし聖霊が私たちを導かれるとするなら、みことばである聖書に従って導かれる。みことばに矛盾した導き方をされることは決してないのである。

4 神の摂理による環境に注意しなさい。...

5 祈りなさい。

私は祈りのうちに、神が心を正しく啓示して下さることを求める。

6 待ちなさい。

このように、祈りと、みことばの研究と、黙想とによって、私は、自分の能力と知識の及ぶ限りの慎重な判断を下す。そして、もしこのようにした結果、私の心に平安が与えられるならば、そして、更に二、三度神に嘆願したのちにもその平安が持続しているならば、自分の判断に従って行動に移るのである。

（ジョージ・ミュラー）

2月28日

暗やみに輝くともしび。(第二ペテロ 1・19)

たいまつを持つ人

たいまつを持つ人よ、いかがですか。

私はめまいがしてよろよろだ。

前に飛び越えた小山にもつまずき

前に踏み砕いたもつれ草にもはねとばされる。

私の注意力はもう失われている。

たいまつは半ば消えて、

熱くなってきた手を通し、

恐ろしい苦痛がやって来た。

私はすべてを忘れ、

たいまつを、ほかのよい走り手に

渡すことだけに心を砕いている。

たいまつを持つ人よ、いかがですか。

私は今、道の横、芝ふの上に、

からだを投げ出して休んでいる。

そこで、あなたの問いにひと言で答えよう。

私のした努力に、賞賛すべき何があるのか。

私は、安らぎを持っている。

でも、もう疲れてしまったのだ。

あなたは息切れをしていない。

だから、立って小手をかざし、

前方をみつめて、知らせてくれ、

かなたの走者のたいまつはどうなのか、を。

もしいたいまつが進むなら、わたしの力を、喜んでゆだねたい。

アーサー・チェンバリン

私たちは、点灯夫として暗い道をあちこち点火して歩くために召されているのである。

3月8日

(彼は)ご自分のことをあかししないでおられたわけではない。

(使徒 14・17)

彼女(ドイツのF・R・ハヴァーガル。デュッセルドルフの女学校生徒のときの経験)は、次のことを悟っていた。すなわち自分はその学校で果すべき責任を持っていること、自分はそこでキリストの証人 キリストのただひとりの証人 となるために召されたのであるということ...を。

キリスト者の生活は、ごまかしの生活であることはできない。それは隠遁の生活であってはならない!そこには告白がなければならない。「今よりのち、私は主の兵士です!」という大胆な、明快なラッパの響きのような告白がなければならないのである。

積極的にあかしをなささい!

もしあなたが焼き印を押された青年であるならば、それをあなたの名誉のしるしとしなさい。

神はあなたを、あなたが今いる所に置かれたのである。それは、そこにおいてひとりの証人を必要とされるからである。

戦いにおいてあなたが立っている場所、それがあなたの場所である。

3月14日

あなたが立っているその場所は聖なる地だからである。

(出エジプト 3・5)

神の召しは、日々の職務という聖なる地に立っている彼ら(サムエル、ダビデ)の上に来たのである。...

神は、麦を打っているギデオンを、いちじく桑を作っているアモスを、羊の群を飼っているモーセを、収税所にいるマタイを、祭司の家にいるヨハネを、漁業に従事しているペテロを、ラビの学校に学んでいるパウロをお召しになる。そのように、神は私たちを、農場から、商品売り場から、事務所から、手仕事場から、講壇から、奉公人べやから、お召しになるのである。神は私たちを、少年時代に召される。壮年時代に召される。また、老年になって召される。すべての人は、果たすべき使命を持っている。すべての人が、もしキリストのわざをなすならば、同様に報酬を受けるのである。

きょうという日が
あなたにもたらすいろいろな中に
あなたへの神の召しがある。
あなたが耳を傾けなければ、
それを聞くことが
全くできないかもしれない。...

神があなたのもとに来て、
「ここにあなたがしなければならぬ事がある」
と言われるときに、
あなたは耳を傾けていなさい。

私たちの世界は、一つの広大なささやきの回廊である。しかし、耳を傾ける者だけが、真理の「静かな細い声を」を聞くのである。

3月16日

ただあなたはみずから慎み、またあなた自身をよく守りなさい。
そして目に見たことを忘れず、生きながらえている間、それらの
事をあなたの心から離してはならない。 (申命記 4・9)

「あなたは危険のうちにいるであろうか。あなたの主にそのことを
告げなさい。あなたは誘惑されているであろうか。彼にそのことを
告げなさい。あなたは途中でつまずいて、彼を悲しませたであろう
か。彼に告げなさい。決して、告白しゆるしを求めるのに、夕方
になるのを待っていてはならない。ゆるしがあなたの告白を待ってい
る。直ちに告白しなさい。あなたがどこにいても、汽車の中
でも、オフィスにおいても、街頭においても、忙しい一日の目の回
るような中であっても、祈りのうちにあなたの必要を言い表しなさい。
どのようなときにも、常に神の御前であることを学びなさい。
また、あなたが重荷あるいは必要を感じるときはいつでも、その圧
迫の下で、神に語りかけなさい。

「誘惑があなたを攻撃し、敵があなたの魂に押し寄せるとき、鳥の
ように高き天を求めよ。」「鳥のように山に逃れよ。」

だれが山を知っているか。神とともにひとりその雲におおわれた
頂を歩んだ者である。

エセル・ロミング・フラー

3月17日

ペテロは祈をするため屋上に上った。（使徒 10・9）

カートゥムにおいて悲劇的な死を遂げた有名なイギリスのチャールズ・ジョージ・ゴードン将軍は、決して、何ものによっても、彼の神とともに朝の交わりのひとときが妨げられることを許さなかった。彼がスーダンを行軍していた時、毎日一時間は、彼のテントの外に白いハンカチが置いてあった。野営している全軍は、このちょっとしたしるしの重要性を知っていた。そして、人種や宗教のいかに問わず、すべての将兵によって、神聖なものとして重んぜられていた。いかなる伝言も たとえ急を要するものであっても

テントの中に持ち込まれることはなかった。それがどのような種類の伝言であっても、生死にかかわるものであっても、その信号が取り去られるまでは待機していなければならないのである。ゴードン将軍はひとり神との交わりの中にあるということ、すべての者が知っていた。その白いハンカチは、彼の敬けんな、恐れを知らない、没我的な生活の秘訣だったのである。彼は神との親密な交わりの中に生きた人であった。

祈りなしには、あなたは誘惑に対して全く無力である。しかし、祈りによってあなたはししのようになり、「若いしと、へびを足の下に踏みにじる」ことであろう。

常に神との約束を正確に守りなさい。私たちは、自分自身の都合を考えてはならない。

注 ゴードン（1833 - 85） イギリスの軍人。クリミア戦争に参加後、1860年清国とのアロー戦争に従軍し、北京攻略に参加した。太平天国軍を討伐した。のちエジプトのスーダン総督となり、イスラム教徒の反英戦争マフディーの乱で戦死した。

3月18日

またこれは一日やふつかの仕事ではありません。

(エズラ 10・13)

かじ屋が仕事をしているのを見よ。その仕事がどのようになされてゆくかに注目してほしい。筋肉が必要であり、頭脳もまた必要である。ハンマーで、一打ちまた一打ちと、しんぼう強く打ち続ける。そしてついに、完全な蹄鉄ができ上がる。それは、早急になされたのではない。執拗さが、また力と闘志が必要であった。私たちすべての者は、そのように仕事をしなければならない。(疲れてしまったり、しりごみしたりしてはならない)。一時間ではなく、一日ではなく、一週間でもなく、一か月でもなく、一年でもない。どれほど長く続くかは、だれにもわからないのである(若者よ、がんばり続けよ。成功は近くにある)。少年よ、打ち続けよ。打ち続けよ。」

ヴィルヘルミナ・シュティッチ

「天才は、その四分の三は、こつこつと忍耐強く労苦することによってつくられるものである。...」(ピアニストのパデレフスキー)

この世は、パデレフスキーを天才と呼んでいる。しかし、パデレフスキーは、天才になる前に、こつこつとたゆまず努力する人だったのである。

勝利と努力とは双生児である。